

本町のDX推進状況は。

答 DX推進計画の策定に取り組んでいます。

町民サービス向上に向けて

問 本町におけるDX推進計画の具体的な内容を伺います。

町長 デジタル技術を活用した町民サービスのさらなる向上を図るため、町DX推進計画の策定に取り組んでいます。デジタル技術の活用により、①あらゆる場面で誰もが活躍できるまちづくり、②未来につながる持続的に成長するまちづくり、③デジタル技術の安心・安全が確保され効果的に活躍できる環境づくり・人づくりを三つの基本方針として掲げ、これらを達成するための重点取組事項について定めること



DX推進に向けて

としています。

問 DXの推進に向けたデジタル人材育成について伺います。

町長 管理職と各課から選定された庁内DX推進リーダーを対象とした意識改革を図る研修を実施しています。そのほかにも、デジタル全般にわたる基礎知識の向上を目的とした研修を実施しました。今後は、職員のさらなるデジタルリテラシーの向上を図るため、DXアドバイザー資格の取得に向けた研修を実施する予定です。

問 人口減少の時代において、職員数のさらなる減少も見込まれ、労働力の供給を民間に求めることの困難さも増していき将来的には、サービス提供に係るコスト増や、担い手となる事業者が見つからないというケースも予想されます。DXの推進によって、このような問題の解決にもつながるのではないのでしょうか。

企画政策課長 業務量調査を実施し、DXで対応できる部分とできない部分を洗い出すことで、労働力としてどのくらいの職員が必要なのか検討をしています。

萩原 宏紀 議員

所要時間 60分



問 福岡県うきは市ではプレミアム商品券を電子化し、業務量の圧縮や詳細なデータの抽出を実現していました。本町においてもプレミアム商品券の電子化を導入してはいかがでしょうか。

企画政策課長 利便性が向上し、若い世代も取り込みやすくなる一方で、高齢者がスムーズに利用できるようにする対策も必要ではないかと考えています。

問 町DX推進委員会が発足され、ライン公式アカウントの「たこなび」を作成し、町の事業者や飲食店を紹介しています。今後、官民連携でDXを推進することが必要ではないでしょうか。

企画政策課長 庁舎内のDXに取り組むことが最優先課題となっていますが、地域社会のDXについても積極的に支援してまいります。

土井 秀敏 議員

所要時間 42分



安全に使用できる環境を

問 タブレットを使うこと自体に重点が置かれ、子ども達の想像力や考える力が低下してしまわないか伺います。

教育長 児童・生徒が自主的に検索することで知識と理解



デジタル化先進事例を視察(福岡県うきは市)

誰もが活躍できる町に

問 ダイバーシティ推進について取り組みを伺います。

町長 女性管理職の登用を積極的に行っており、今後さまざまな業務で活躍できる幅広い人材の確保およびその育成に取り組んでいます。

移住者へのケアを

問 移住・定住者に対して区費や地域の行事、奉仕作業、消防団への加入などを伝えていますか。また、移住後のケアについて現状を伺います。

企画政策課長 移住コーディネーターとともに連携し対応しています。

が深められ、子どもの能力にに応じて納得するまで学べるのがICT教育のメリットだと思っています。ご指摘のことは、デメリットのひとつとして報告されているのは承知しています。疑問や不明な点があった時には、子ども自身が創造または予想すること、想像力、問題解決力が養われていくのだと思います。デジタルとアナログ双方の良い所を取り入れて授業をしていくことが必要だと考えています。

問 教職員のスキルアップのための研修会やICT支援員は足りているのか伺います。

教育長 研修は夏休みに集中して実施しました。ICT支援員は各学校に月2回伺いながら授業に入り、効果的な機器の利活用の仕方をアドバイスするという業務を行っています。支援員の数はこれまでは足りていると思われませんが、今以上にICT教育を推進し、さまざまな取り組みを進めていくには、高い技術を持った講師を招くことなどを視野に入れて考える必要があると思います。

このほかの質問

●教職員の業務に余裕は出るのか
●ICT教育は教育の基準となるのか



ICT教育のさらなる推進に向けて

ICT教育の現状は

問 ICTシステム導入の目的を伺います。

町長 電子黒板は、子ども達の好奇心や探求心を養い、主体的で深い学びにつなげていくためのツールとして、タブレットと連動させ、より効果的にICT教育を進めるために導入しました。電子黒板の導入により、効率的な授業準備や授業展開が図られ、学校における働き方改革にもつながるものと考えます。

ICT教育の目的は。

答 主体的で深い学びにつなげることです。

問 ICTシステムの配備と活用状況を伺います。

町長 電子黒板は、さきに配備済みの10台と9月に契約した52台と合わせて62台が小・中学校の普通教室と特別教室に配備済みです。活用状況については、公開研究会では、タブレットを使用して課題に取り組む児童の様子が電子黒板に一齐に映し出され、そのうちの一人の児童が自分の回答を拡大して発表を行っており、児童全員のノートの共有や発表がスムーズにできるようになるなど、有効に活用が進んでいます。1人1台の端末を使って学ぶことは、令和のスタンダードな学習の姿となり、個別最適化された学びと創造性を育む学びを実現することが重要になると考えています。

問 機器のセキュリティに問題は発生していないか伺います。

学校教育課長 他市町の例を踏まえ、セキュリティ対策は十分に取っています。タブレット端末は、家庭への持ち帰りを実施していますが、実施から1ヶ月が経ったので、保護者にアンケート調査を行ったところ、トラブ